

# 管理栄養士の病棟常駐による効果

江藤病院 山城 与晶（管理栄養士）

- 適切な栄養管理を目的に各病棟に管理栄養士を常駐させ、多職種意識変化やエネルギー住職率について検討している。常駐により多職種と連携し適切な栄養管理を提供できるようになった。しかし常駐にも問題があり滞在時間を確保できるよう業務改善が必要である。
- 病院の各部署が、看護師介護師職員に関係なく、常時患者に直接会って病状を把握することが一般的になってきている。薬剤師、理学療法士、管理栄養士も病室に常在して情報有する時代を迎えている。回復期リハ病棟における、スタッフ意識変化と、その効果をエネルギー充足率から見た報告である。スタッフ意識向上と特に栄養面でアルブミン値も改善を見ており、有益な対応である。スタッフ数を解決する事が必要であるが、今後の治療スタイルを誘導している。
- 管理栄養士が各病棟に配置されることは多職種連携からも BMI・ALB の改善からも非常に有用だと理解できた。ただ、管理栄養士として BMI や ALB の改善についてどのように関わったのか具体的な内容について述べて欲しかった。
- 患者さんの健康、リハビリテーションにおいて栄養はなくてはならないものです。今や栄養はバイタルサインの一つともいわれています。病棟患者さんにとって栄養を管理する重要性は今や患者さん本人をはじめ、すべての職種において理解されていると思います。病棟スタッフの多くは管理栄養士さんに多くの期待を寄せています。長く患者を診るということはそれだけ多くの気づきが得られます。管理栄養士さんの職域は今後益々広がっていくでしょうこれからさらに多くの業務を開拓し、患者さんの健康に寄与されることを期待しています。
- 発表おつかれさまでした。栄養士を複数雇用するという画期的な発表で興味津々で拝見いたしました。看護師の業務負担にも増加する案件かとは思いますが、栄養士が下膳や食事介助を主として取り組んでいることに感動しました。当院も参考にしたいです。確実に患者の栄養状態改善には結びつくと思います。引き続き検査値や患者からの感想でうれしかったこと、改善したことなどありましたら今後もご報告いただけましたらと思います。